

# 景況レポート

(2月分・情報連絡員60名)

## 好転業種が無くなり、景況DI値は悪化

### 【概況(全体)】

2月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが0%(前回調査3.3%)、「悪化」が68.3%(同68.3%)で、業界全体のDI値は-68.3となり、前月調査と比較し3.3ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックの景況DI値は、前月より改善したものの、依然として低調に推移している。

新型コロナウイルスの影響が長期化し、受注を確保するために大企業が価格競争を助長する動きや、少ない需要を取り込むための同業者間での価格競争激化の動きがみられる。

### 【業界別の状況】

新型コロナウイルス感染拡大に伴う大都市圏での緊急事態宣言延長の影響により、製造業では、受注が大幅に減少した業種が多く見られ、非製造業においても売上が減少した業種が多かった。

加えて、県南部の大雪の影響も一部に見られ、好転要因に乏しく、景況DI値は昨年5月以来、全業種が「悪化」となった。

### <全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-68.3	-53.4	-53.8
製造業	-83.3	-54.7	-60.3
非製造業	-58.3	-52.5	-50.2

### <景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

#### 【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り 10以上 30未満  
 雨 10未満  
 雷雨 30以下

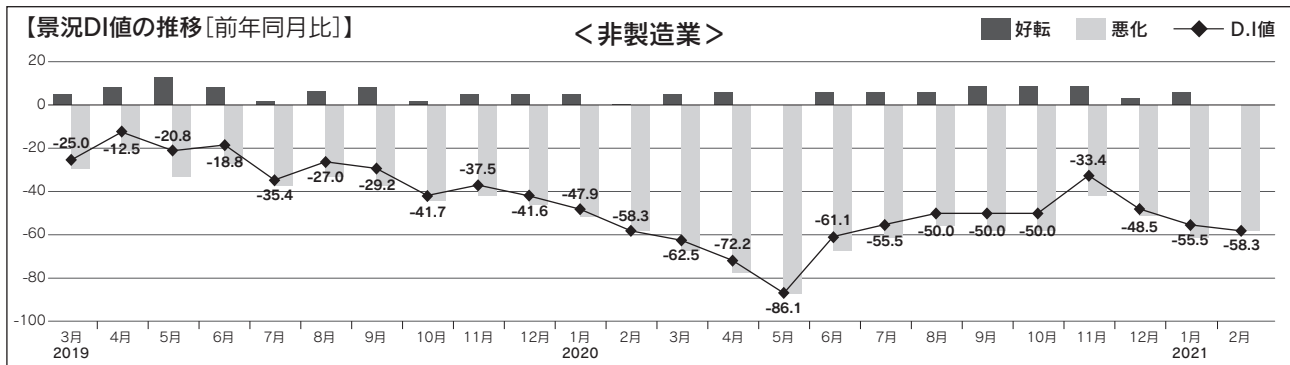
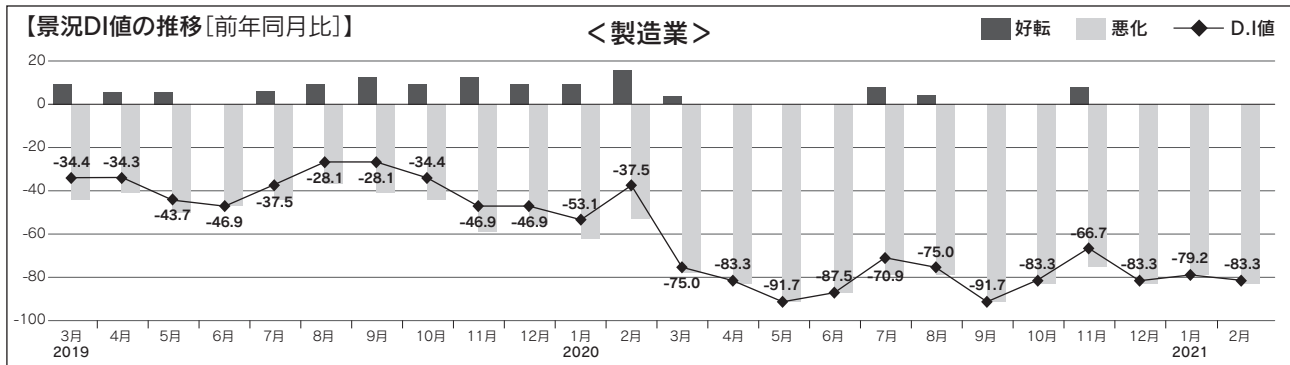
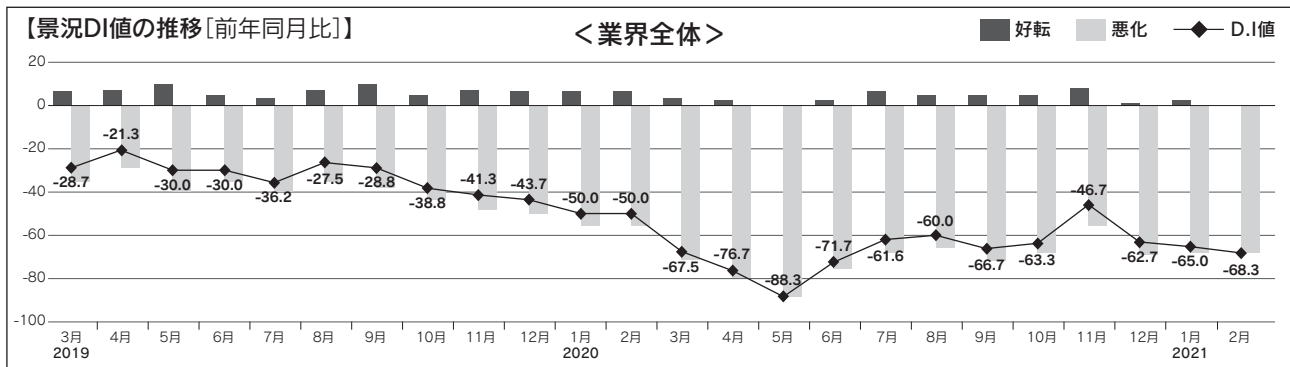
【天気図の見方】  
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ~製造業~

(回答数：24名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	依然として宴会・飲食の自粛により売上は減少しており、前年同月比10%以上も下がった。新型コロナウイルス感染拡大から1年が経ち、様々な制度や支援を受けているが、資金が底をついてきている。一刻も早い収束を願っている。
食料品 (菓子)	緊急事態宣言による地方への影響が大きいため、物の動きが少なく、特にお土産品を扱っている人達の売上減少が続き、厳しい状態が続いている。
繊維工業 (繊維)	3月で厚生労働省の発注の防護服(医療用ガウン)がなくなることに加え、首都圏の緊急事態宣言を受け、都内を拠点としているアパレル企業が苦戦を強いられているため、受注が皆無という企業も少なくない。この先の業況の回復は見込めず悪化する一方である。(中央地区)
木材・木製品 (一般製材)	2月の製品販売高は、前年同月比で13.8%減少した。新型コロナウイルスの影響で経済活動の停滞はあるが、関東圏での荷動きは、3月の受注が順調であることから、多少の回復が感じられる。原木は大雪と寒波等の影響から出材量が少なく、仕入価格が上昇している。
木材・木製品 (素材生産)	新型コロナウイルスの緊急事態宣言が収束することを見通し、各製材工場とも増産傾向となっていることから、原木在庫が減少傾向にある。そのため、素材生産業者に原木の増産が求められているが、昨年の生産調整の影響で急な増産が困難な状況から、原木が不足となっている。今後、原木の増産を計画する素材生産業者が多くなると考えるが、新型コロナウイルスの影響が不透明なことから、大幅な原木増産は見込めない状況である。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	出荷数量は前年同月比82.0%、4月~2月累計で92.9%となった。今月は鹿角、能代山本地区を除いて前年を下回った。今年度は、当初の出荷想定数量572,000m <sup>3</sup> をわずかに上回ると想定される。県南地区の落ち込みが大きく、今年に入ってから積雪の影響と思われる。
鉄鋼・金属 (機械金属)	前月に引き続き、受注の動きもほとんどなく、このままでは全く先が見えず、最悪の状況である。新年度に向けて、何か手がかりがあればいいが、不安ばかりだと危惧している経営者が多い。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	2月中旬頃より、見積依頼が徐々に出てきているが、改修工事等で未だ十分な物件には程遠いのが現状である。今後も大きな期待はできないのではと先行きに不安を感じている。
その他の製造業 (漆器)	例年冬期間は、来客及び売上が減少傾向にある。今年も例外なく厳しい冬であった。湯沢市の観光客に対する支援事業の中で、川連漆器を扱っていただく企画も3月までということもあり、まとまった売上は期待できない状況である。組合公式ホームページ上で購入できるようサイトをリニューアルした。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：36名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	2月は上~中旬にかけて前月から続く降雪等悪天候の影響や、小正月行事の縮小・中止等により、相対的に売上低迷が懸念されたが、量販店需要を中心に大きな影響を受けず、前年同月比110.2%となり、比較的順調に推移した。コロナ禍において外出を控える意識の定着化が進み、自家消費の下支えになっていると推察される。ただし、ホテル・結婚式場・一般飲食店等への売上低迷は依然として続いている。
卸売業 (米)	新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として緊急事態宣言が発出されており、飲食店の時短営業や閉店等に伴い、米の消費が著しく低下しているとみられるため、注文数が前年同時期に比べて減少している。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は1ℓあたり139円で前月比3円90銭の値上がりとなった。軽油は123円で前月比4円30銭、配達灯油18ℓは1,560円で前月比75円それぞれ値を上げた。
小売業 (花卉)	依然として、新型コロナウイルスの影響で葬儀関係は大幅に落ち込んでいる。ギフト関係は少しずつ戻っており、全体的に1~2割程度の落ち込みとなっている。生産者は新型コロナウイルスの影響で作付けしていないところも増え、品数不足でやや高値が続いている。
商店街	全般的に業況に変化はなく、マイナスとなっている。そのような中、商店街街区スタンプラリーにより、売上が前年同月比に近づいた店舗もあった。(秋田市) 2月になっても豪雪が続き、商店・事業所とも除排雪費用がかかり増しになりコロナ禍と併せ厳しい月となった。(湯沢市)
サービス業 (タクシー)	コロナ禍により人の移動が少ない。特に夜の繁華街からの利用は壊滅的な状況である。全県の運行回数(対前年同月比)は71.1%、運送収入(同)は67.3%となった。
建設業 (電気工事)	昨年は新型コロナウイルスへの警戒心から、県外との往来や受注物件への取り組みも自粛ムードだったが、最近は患者も増えておらず、警戒心も薄れ、受注物件も年度末を迎えて多忙だったようである。高齢化から下請業者も不足しており、相変わらず電気不足で忙しさに拍車をかけている。(中央地区)
運輸業 (トラック)	荷動きは前月と同様であった。燃料価格がこの3ヶ月で1ℓあたり11円上昇しており、今後が心配である。(中央地区)